



ありがとうの
プロフェッショナルへ。

Vision 2024（第3次中期計画）
〔2020～2024〕

はじめに

平成22（2010）年に第1次中期計画「Vision 2014」が開始されて以来、本学の中期計画は10年を迎えました。

その間、大学を取り巻く環境をはじめ、世界は大きく変化しており、その変化のスピードは今後ますます加速していくことが予測されています。

少子高齢化や高度情報化、グローバル化、Society5.0やSDGsなど、これからの社会に対応していくために、大学自身の努力による不断の改革が不可欠となっています。

本学の中期計画は平成22（2010）年の第一次中期計画に始まり、令和2（2020）年度より三期目となるVision 2024（第3次中期計画）が開始されました。

Vision 2024（第3次中期計画）では、これまでの取組みは、なお生かしつつ、大学教育改革の要である「**教育の質保証**」と、これを進めるための「**教学改革**」に重点的に取り組みます。

IRの強化充実を通して、教育内容の質を高め、学修成果を可視化させること等を通じて教学マネジメント体制を確立させ、学部等の改組改編や留学制度の本格的導入など、学生の主体的学びを加速化します。

わたしたちの教育への思い、人材育成の方針は、「ありがとうのプロフェッショナルへ。」に込められています。

Vision 2024（第3次中期計画）は、これを実質化する営みでもあります。そして、「ありがとうのプロフェッショナル」を育成するためにも、大学の水準を高め、体質を強化することが必要です。

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「ガバナンス」など、全てがバランスよく機能しながらも、特に「教育の質」を追求します。

真に有為な人材を輩出する高等教育機関として、在学生、卒業生にとって本学を誇れることができるような大学づくりを進める5カ年でありたいと思います。

令和2年2月26日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真

養成する人材

豊かな人間性と高度な専門知識を備え、地域社会に貢献できる人材

人間力

自己を見つめ、他者を理解し、感謝の心を持って共に生きる力

応用力

思考力

知識や技能を発展的に生かすための創造性や論理的思考力

実践力

身に付けた知識や技能を実践的に活用し更新する力

わたしたちが育てる人材は「豊かな人間性と高度な専門知識を備え、地域社会に貢献できる人材」です。そのため身に付ける力を「人間力」と「応用力」と定め、この力を身に付けた学生を社会に輩出します。

わたしたちが育てたいのは、

心の優しい、人の痛みが分かる人材

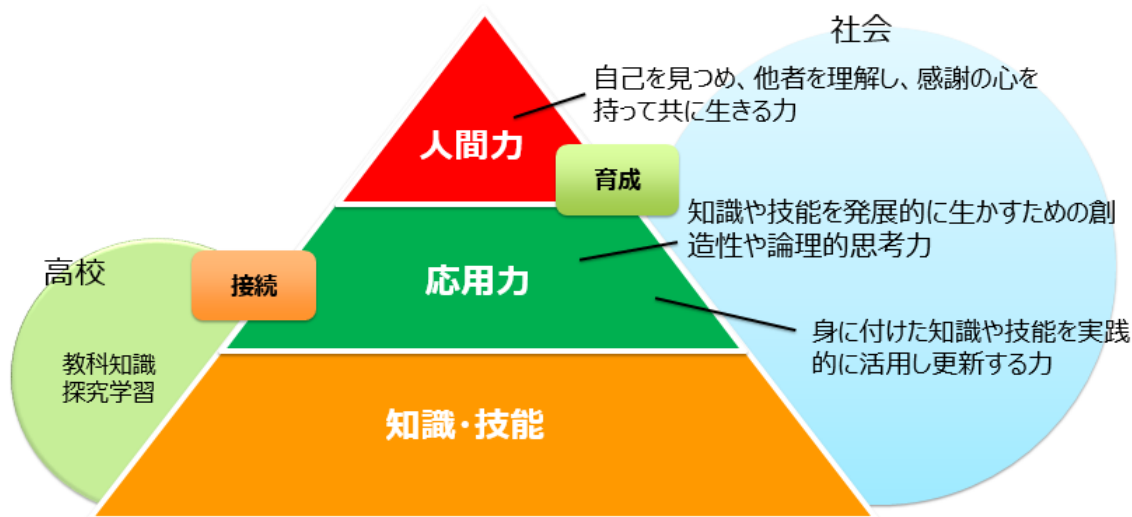
優しさの中にも芯を持つ、強さだけではなくしなやかさを持った人材

めまぐるしく変化する社会にあって、大学までに学んだ内容で満足することなく、一生涯学び続ける姿勢をもち、さまざまなことにチャレンジできる人材 です。

わたしたちが目指す教育は、知識・技能に裏付けられた確かな応用力と、物事に真剣に向き合う姿勢や、優しい心などの人間力、これらの力を身に付け、「ありがとうのプロフェッショナル」を育成すること。

知識・技能は当然ですが、それを活用し、発展させる「思考力」、さらに自己を見つめ、他者を理解し、感謝の心を持って共に生きる「人間力」を身に付けることが、本学の特長といえます。

そして、これらの力は大学や短大の学びで完結するものではなく、一生涯学んでいくための土台をしっかりと卒業までに身に付けさせます。



建学の精神



建学の精神は聖徳太子の十七条憲法に示された「和」の精神です。

「聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成する」ことです。

※「和」…学園創設者 河野厳想 書「以和為貴 篤敬三寶」から引用

教育に込める思い

ありがとうのプロフェッショナルへ。

「ありがとう」に

あふれる人生を送ってほしい、

それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、

仕事をさせていただくこと。

他者にこころを寄せ、

おたがいに認め合い大切にしようこと。

そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。

すると、やがてあなた自身が

「ありがとう」という感謝の言葉を

いただくことができる専門家となります。

それこそが、私たちが目標とする

“ありがとうのプロフェッショナル”なのです。

私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。

5年後の大学像

「ありがとう」をつむぐ大学

～本学で学ぶ全ての人が学びを実感できる大学へ～

わたしたちの使命をこの社会にあって実現するためには、どうすればよいでしょうか。

わたしたちは行動指針として、学園訓である「感謝（生かされる心）、寛容（信じあう心）、互譲（助け合う心）」を掲げ、本学に関わる全ての方が心豊かな生活を営むことを願っています。

学園訓が示す言葉、わたしたちが大切にしている言葉「ありがとう」。ここには他者を思いやり、誰かのために心を尽くす思いが込められています。

「ありがとう」を大切にする豊かな人生を送ってほしい、人材育成の大きな柱を実現することを「つむぐ」という言葉で表しました。「つむぐ（紡ぐ）」には、引き出して「つなげる」＝「結びつける」という意味があります。

人生100年時代、グローバル化と情報技術の進歩が著しい中にあって、予測されることは社会の多様化です。多様な生き方、人々、価値観が拡大し、時にぶつかり合い、痛みを伴うこともあるでしょう。多様化する人々の価値観や新たな生き方を引きだし、つなげること、「つむぐ」ことが社会を豊かにする鍵になると考えます。

「人」と「人」をつむぐ。

「大学」と「地域」をつむぐ。

「学問」や「実践」から生まれる「知」をつむぐ（知の創造）。

「実践力」と「ありがとう」から「プロフェッショナル」をつむぐ。

「人間力」と「応用力」で「ありがとう」をつむぐ。

そして、さまざまなものが紡がれることで、学生自身が自分の学びや得た力を実感することができ、経験や身に付けた力が、その後の人生の糧となっていく、そのような学びと成果を提供できる大学を目指します。

わたしたちは、「ありがとう」を大切にしながら、さまざまものを「つなぎ」、そして広げていくことで将来にわたって求められる大学であり続けます。

Vison 2024（第3次中期計画）

中期計画 基本骨子

建学の精神の浸透

I 建学の精神の浸透と実践

教育の質の向上

II 建学の精神に基づく人材の育成

III 教育の質保証改革の推進

IV 研究水準及び研究成果の向上

V 高大接続の強化

運営基盤の強化

VI ブランド力の強化

VII 地域社会との連携強化

VIII 経営・ガバナンスの強化

建学の精神の浸透

【わたしたちが目指すもの】

学園創立100周年に向けて、単なる原点回帰ではなく、建学の精神である「和」に基づき設置された本学を持続的に発展させるために、教育の質の向上（人材育成）と経営基盤の強化にあって、建学の精神を再確認する必要があります。

創設者の信念や思いだけでなく、創設時の歴史的背景や地理条件が折り重なり、つむぎだされた**建学の精神を深く理解し、胸に刻み**、継続的に発展します。

【基本骨子と戦略目標】

I 建学の精神の浸透と実践

I - 1 : 建学の精神の理解

建学の精神の浸透

【基本的な考え方】

I 建学の精神の浸透と実践

I - 1 : 建学の精神の理解

■ 建学の精神を見つめ直す

兵庫大学・兵庫大学短期大学部の根幹をなすものは、建学の精神である「和」です。教育や研究をはじめとする大学の営み、その全てにおいて建学の精神が通底し、自然と「和」が浸透することをめざします。

そのためには、創設当時の建学の精神への思いを、全教職員が正しくふり返し、理解することが必要です。ただし、このことは単なる原点回帰ではないのです。正しく「知る」こと、「理解する」ことに加え、現代に生きるわたしたちの活動にいかに反映させていくのかを全員で考え、実践します。

また、「和」を具現化するための学園訓「感謝」、「寛容」、「互譲」はわたしたちの行動規範です。兵庫大学・兵庫大学短期大学部に関わる全ての方と「和」を共有していきます。



教育の質の向上

【わたしたちが目指すもの】

知識偏重型の学習ではなく、「**何ができるようになるか**」（知識活用型）の学習を重視します。
一人ひとりの可能性を引き出し、いかなる急激な社会の変化にあっても、「人間力」と「応用力」を最大限に発揮し、時代に対応できる人材を育成します。

【基本骨子と戦略目標】

Ⅱ 建学の精神に基づく人材の育成

- Ⅱ－１：建学の精神の学生への浸透と教育課程の再構築
- Ⅱ－２：「ありがとうのプロフェッショナル」の育成

Ⅲ 教育の質保証改革の推進

- Ⅲ－１：教学マネジメントの確立
- Ⅲ－２：時代のニーズに応じた学部等の改組・編成
- Ⅲ－３：教育・学生支援環境の整備・充実
- Ⅲ－４：グローバル化・ダイバーシティの推進

Ⅳ 研究水準及び研究成果の向上

- Ⅳ－１：研究生産性の向上
- Ⅳ－２：地域ニーズ対応型研究の推進
- Ⅳ－３：「知」の集積拠点としての研究基盤の形成

Ⅴ 高大接続の強化

- Ⅴ－１：附属校・園との連携強化
- Ⅴ－２：高等学校との連携強化

教育の質の向上

【基本的な考え方】

Ⅱ 建学の精神に基づく人材の育成

Ⅱ－１：建学の精神の浸透と教育課程の再構築

Ⅱ－２：「ありがとうのプロフェッショナル」の育成

■ 建学の精神に基づく人材育成を見つめ直す

教育や研究、大学運営、人と接すること。

そのためには、創設当時の建学の精神への思いを、教職員が正しくふり返り、理解し、それぞれの組織においてどうあるべきか、をきちんと考えることが必要と考えます。

100年ほど前、戦間期にあって漠然たる不安が頭をもたげた時代、財界人の別荘地が隣接する格差の見える須磨という地であればこそ、「和」は大きな意味を持ちました。このことは現代においても問われ点ではないでしょうか。

本学に関わる全ての方と「和」を共有していきます。



Ⅲ 教育の質保証改革の推進

Ⅲ－１：教学マネジメントの確立

Ⅲ－２：時代のニーズに応じた学部等の改組・編成

Ⅲ－３：教育・学生支援環境の整備・充実

Ⅲ－４：グローバル化・ダイバーシティの推進

■教育の質を保証することの意義

日本の教育は今、大きく変化しようとしています。社会の仕組みや価値観が変容する中で、高等教育機関として、「どのような力を持った人材を育成するのか」は極めて重要な課題です。

わたしたちは、知識や技術の習得だけではなく、身に付けた力を最大限に発揮し、課題解決を図ることのできる知識活用型の学習をより重視していきます。

そのために、教学マネジメントを強化します。

教学マネジメントとは、3つのポリシーが継ぎ目なく展開され、適切な教育を行うことができるよう内部質保証や学修成果の可視化がなされること等を意味します。教学マネジメントは広範な教育運営を範疇に収め、明確な教育目標の設定とそれに合わせた教育課程の編成、教育改善を支援する体制、教育環境の拡充に至るまで、すべてがバランスよく成立してこそ、教育改善のPDCAへと繋げることができます。

また、多様な学修履歴をもつ学生に対し、適切な教育を行うためには、教学IRは不可欠です。これからの社会に求められる力を学生一人ひとりが身に付けるため、学生生活においてさまざまな学習や体験ができ得るよう、教育プログラムの開発を行います。

「人間力」と「応用力」を含め、学生の学びの成果を可視化し、全ての学生が豊かな人生を歩むための教育を展開し、「ありがとうのプロフェッショナル」を育成します。

教育の質の向上

IV 研究水準及び研究成果の向上

IV－1：研究生産性の向上

IV－2：地域ニーズ対応型研究の推進

IV－3：「知」の集積拠点としての研究基盤の形成

■ 地域志向・教育型大学として研究水準の向上を目指す

学術研究は高等教育機関に課された重要な使命の1つです。

研究活動は、個々の研究者の自由な発想と旺盛な好奇心に基づき行われるものであり、それにより未知の分野を開き、未来社会のあり方を変え得るものです。これらの社会の発展の基盤となるような独創的な研究成果は、研究者の不断の努力によって生み出されてきました。

そして、教員は教育者であり、研究者であることの基盤をなすのが研究です。

研究成果に裏打ちされた教育は、学生に学問への興味と探究心を与えることができます。

面白い授業には、さまざまな知識や実践力を複合的、多角的に捉え、そこから集積された学問としての奥深さが醸しだされています。

また、研究は社会に還元されるものであり、経済発展や社会的問題の解決にも寄与することが重要であり、とりわけ本学が、「地域志向の大学」であろうとするならば、地域社会の課題解決に貢献していかなければなりません。

研究活動の活性化を図ると同時に、「知の集積拠点」としての役割を果たしていきます。



教育の質の向上

V 高大接続の強化

V-1 : 附属校・園との連携強化

V-2 : 高等学校との連携強化

■ 教育を基盤とする高大接続

高校と大学の接続教育は、大きな転換期を迎えています。

そして同時に、小学校、中学校、高校では、これからの社会を支える人材を育成するために、AIの活用や英語教育の早期導入化、PBL学習など、さまざまな教育が展開され、そこで学んだ人たちが大学に入学します。

これまでに学んだ学習をさらに多面的・複合的に捉え、生徒の持つ力を最大限に伸ばしていくこと、また生徒の志望と大学教育のミスマッチを防止することこそが、高大接続を行う重要な意義であると考えます。

学問の面白さや奥深さを提供し、生徒たちの力を伸ばし、自ら主体性を持って探究できる人材を育成するために、わたしたちは、高校との接続を通じて、教育の本質を共に考え、そして、わたしたちの教育方針に合った学生を確保していくことに力を入れます。

そして、附属園や附属校との連携を通じて、相互に良き教育環境を提供し合い、新たな教育プログラムの開発を行うなど、大学と附属校園ならではの教育を展開し、学校法人睦学園としての特色化を図ります。



運営基盤の強化

【わたしたちが目指すもの】

ステークホルダーに対し、信頼度の高い大学となります。

「ありがとう」をつむぐ大学としてのブランドを確立するとともに、地域社会を重要なステークホルダーとして、そのニーズに応え、また高等教育機関としての役割を自覚し、基盤となる経営や組織を強化します。

【基本骨子と戦略目標】

Ⅵ ブランド力の強化

- Ⅵ－１：収容定員の充足
- Ⅵ－２：USR（大学の社会的責任）活動による信頼の確保
- Ⅵ－３：SDGsの推進
- Ⅵ－４：ステークホルダーとの信頼関係の醸成

Ⅶ 地域社会との連携強化

- Ⅶ－１：社会的ニーズに対応したリカレント教育の提供
- Ⅶ－２：連携協定先とのさらなる連携強化
- Ⅶ－３：地域との連携による教育・研究支援

Ⅷ 経営・ガバナンスの強化

- Ⅷ－１：機動的な意思決定を可能とする組織体制の確立
- Ⅷ－２：内部質保証の確立
- Ⅷ－３：財政基盤の強化

運営基盤の強化

【基本的な考え方】

VI ブランド力の強化

VI－1：収容定員の充足

VI－2：USR（大学の社会的責任）活動による信頼の確保

VI－3：SDGsの推進

VI－4：ステークホルダーとの信頼関係の醸成

■ 本学のブランドを問う

大学のブランドは、「建学の精神を受け継ぐ伝統」、「大学の雰囲気」、「社会からの評価」など、さまざまなものが合わさりイメージ化されたものです。

兵庫大学・兵庫大学短期大学部の高等教育機関としての高い価値が理解され、受験者や保護者を含むステークホルダーから信頼を得てこそ、ブランドははじめて意味を持ちます。

その中でも特に、わたしたちがこれまで培ってきた、「教育への取組み」はとりわけブランド力の強化に大きな影響を与えます。SDGsなどの取組みにおいては、わたしたちのこれまでの活動を整理することで大学のブランドそのものをデザインし、本学の価値を高めていく可能性を持っています。

また近年は、USR（University Social Responsibility：大学の社会的責任）も注目されています。高等教育機関としてのビジョン、教育研究活動の展開やその特色、研究成果の可視化、財務情報や安全配慮などの情報を適切に発信し、大学の信頼を獲得します。

建学の精神「和」を踏まえた、「ありがとう」をつむぐ大学をめざし、「ありがとうのプロフェッショナル」を育成、社会に輩出し、その豊かさを築くこと、そしてこれを公正に発信してステークホルダーとの信頼を確保することにより、ブランド力を強化します。



運営基盤の強化

Ⅶ 地域社会との連携強化

Ⅶ－１：社会的ニーズに対応したリカレント教育の提供

Ⅶ－２：連携協定先とのさらなる連携強化

Ⅶ－３：地域との連携による教育・研究支援

■ 地域に愛される大学として続けるために

わたしたちは、平成20（2008）年に「地域とのつながり」を重視する地域貢献型大学であることを表明し、以来、地域に愛される大学となるべく、さまざまな活動を展開してまいりました。

第2次中期計画から生涯学習機会の拠点たる大学を掲げており、高等教育を市民に開放する目的のエクステンション・カレッジを開設するなど、地域の知の拠点、交流の場として、これまでも地域と人、本学をつむいできました。

これからも、地域とともに歩むために、わたしたちができること。

「ありがとう」をつむぐ大学であることを自覚し、活動を継続することで、地域になくてはならない高等教育機関であり続けることをめざします。そして、大学の発展だけではなく、共に活動する中で、豊かな社会をめざします。

わたしたちの「つむぐ」は常に全てのステークホルダーと共にあります。

運営基盤の強化

VIII 経営・ガバナンスの強化

VIII－1：機動的な意思決定を可能とする組織体制の確立

VIII－2：内部質保証の確立

VIII－3：財政基盤の強化

■大学運営、経営改善を問う

組織の持続的発展を図るためには、常に課題意識を持ち、大学運営、経営改善にあたることが不可欠です。安定した組織運営、財務がなければ、教育研究の発展を望むことはおろか、大学・短大の存続に大きな影響を与えます。

わたしたちは持続的発展のために、まず「教職員一人ひとりが社会環境の変化を敏感に感じ取り、高等教育に今、求められることは何かを導出し、それを政策へと発展させることができる」組織へと変革します。

教職員の課題を発見・把握・解決する力を高めるための取組みを進めるとともに、高等教育や運営をめぐる諸問題に即応するガバナンス体制を構築し、大学運営に全員で取り組む組織を作ります。

また、安定した大学運営のため、財政基盤の強化を図ります。

その経営・ガバナンスの根底にあるのは、建学の精神である「和」です。これまでのわたしたちが培った組織風土のよいところを大切にしながら、更なる発展をめざします。

ありがとうの
プロフェッショナルへ。



兵庫大学
HYOGO University

